

5B 高齢者や障がいを持った人のその人らしさを尊重した

支援のあり方と福祉労働を考える

石倉 康次

社会福祉労働や社会福祉政策、社会福祉経営の全般を視野におさめながら、社会と人について理解を深めることを続けています。地域福祉計画、認知症ケア、障害を持つ人の加齢、貧困の再生産を食い止める社会福祉の役割などについて特に関心を持っています。

1. 専門演習の目標

受講生の皆さんが、人と社会と社会福祉について、自分なりの判断力をもてることをめざします。他者の論理を批判的に吟味できる力、自らの確かな事実認識を構築するための調査・分析力の獲得がその核になります。

2. 専門演習で扱う課題と内容

演習課題は私が与えるものではないと考えています。受講生のみなさんの問題関心や興味を深める作業を、その分野の研究動向を確かめつつ、演習課題を明確にしてゆく作業を、教員である私がガイドしながら明らかにしてゆきます。

3. 授業の進め方・内容

3回生の前期は、高齢者や障がいを持った人の援助課題と福祉労働のあり方を、その人の人権を基本に据えてとらえるための専門的な学習を行います。夏休みを使って、実態調査にとりくみ、実証的な研究姿勢を体得します。3回生の後期は、実態調査で得たデータの分析作業を行います。3回生での研究はゼミ生が集团的共同的に行いますが、4回生での卒業研究は、それぞれの個人の研究テーマを設定し、卒業研究に取り組めるよう援助します。

4. 必要とする知識

高齢者や障がいを持った人の立場に立って考える視点をもっていること期待したい。

5. 関連する分野・科目・知識

社会福祉の知識だけでなく、社会学についても興味を持っていることがのぞましい。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

石橋典子『「仕舞」としての呆け』中央法規2008年。
石倉他『現場がつくる新しい社会福祉』かもがわ出版2009年。

7. 独自に付加する選考方法

選考は基本はレポートで行いますが、自主的に私の研究室を訪問して関心のあることを語りに来てくれることを期待します。

8. 受講生に望むこと

大学は、自らの自主性を発揮しただけ学べる場所だと思います。受け身では得るものは卒業資格だけでしょう。